

社会福祉法人 木の芽福祉会

令和7年度 各事業計画

御影倶楽部 多機能型	就労継続支援事業B型 御影倶楽部
	自立訓練(生活訓練)事業 リチェルカ
	就労定着支援事業 エム・ライズ

咲くら工房 一体型	就労継続支援事業B型 咲くら工房
	就労継続支援事業B型 ひらめの家

多機能型 御影倶楽部 一体型 咲くら工房

地域支援活動 センター	わかば：東灘区
	あんず：灘区

事業所 支援 相談	いろは
-----------------	-----

事業所名		御影倶楽部	定員	24名	管理者名	宇野 大典
事業名称		就労継続支援B型		障害種別	精神障害、知的障害	
スタッフ体制		管理者兼サビ管1名、職業指導員2名、生活支援員3名(兼務1名・非常勤2名)、目標工賃1名				
令和6年度 事業総括	主な事業計画の達成度/評価	<ul style="list-style-type: none"> 作業やコミュニケーションを通じて利用者同士や利用者と職員間で和気藹々とした活気のある雰囲気を作ることができた。利用実績は年間を通して前年度実績および予算を上回った。 障害特性にあわせた作業の個別化を進め、一人ひとりの得意ややりがいに合った作業を作った。自主製品は積極的に外部とつながる取り組みをして工賃アップに貢献し、平均工賃は1万円を超えた。企業との協働が神戸市から表彰もされた。 室内や外出レクの機会を増やし、仕事以外の楽しみや他事業所を含めた利用者同士の交流の機会を増やした。 ほぼ毎週一回開所時間を短縮して職員会議や話し合いの時間を設けた。作業所環境を整理する時間も確保し作業所環境の安心安全を向上させた。 メンバーミーティングを活性化させた。利用者の自主性や意見の表明を大切にし、様々な特性のある利用者がお互いを理解・尊重しあう雰囲気を作った。 				
	上記に対する拡大/改善・課題	<ul style="list-style-type: none"> 触法利用者が事業所外で犯罪をしてしまったり、異性との距離感に課題のある利用者が実習生や他利用者との「バウンダリー」を超えてしまう事例が続発した。懲罰ではなく、お互いが安心して通所できるように自分と他者を尊重することを学び実践する必要性に迫られている。職員も、より専門的知識を高めるための研修や話し合いを増やさなければならない。 利用者の高齢化が進み、一部利用者には車での駅への送迎で安全な通所に対する取り組みはしたが、病状の進行等で家から出れない利用者も出てきた。今後も高齢化による利用日数減は避けられない流れなので、新規利用者確保のための営業・広報活動をする。また、社会資源(計画相談やGH等)と繋がることで自立生活が安定する利用者には、積極的に繋げていく。 				
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりがその人らしく豊かな人生を送れるよう、適性に合った作業、安心して働ける環境や人間関係、仕事以外の楽しみや学びの機会を作り出す。 多様な障害特性や生活環境を持った利用者を支援するため、社会資源と繋がりつつ職員は学びや話し合いを積極的に行う。 				
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の仕事や作業環境 <ul style="list-style-type: none"> 利用者それぞれの障害特性や得意な事を活かすことができるよう、作業の細分化や見える化、個別化を進める。自主製品は複数職員が担当することで商品力向上や販路拡大を図る。ジョブラボとも連携し就職を目指す利用者のモチベーションを上げる。 改修を機により整理を進め、利用者も職員も安心して働き、過ごせる環境を維持する。 ○仕事以外の取組み <ul style="list-style-type: none"> 外出レクや室内レクの実施を通して、利用者の仕事以外の楽しみや相互理解の機会を持つ。 メンバーミーティングだけではなく「社会科(仮)」の時間を作り、社会で豊かに生きていくための知識やスキルを身につけてもらう。 家族会を開催し、家族との顔の見える関係性を深めたり家族の不安解消に繋げる。 			
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 法人内外での研修参加等を通して支援力を高める。 午後閉所日を定例化し、非常勤職員を含めた情報共有や会議の時間を設ける。 職員が増えた分、コミュニケーションをより緊密にしてお互いの仕事や支援の共通認識を持つようにする。 			
経営	<ul style="list-style-type: none"> 新しい利用者を増やすため、地域の関係機関や医療機関、学校等を訪問する。学校は特別支援学校、普通校を問わず講義やワークショップ等で訪問する。 多機能型御影倶楽部やわかばと作業やプログラムを通じて交流を活発に行い、将来的な利用者確保に繋げる。 土日の開所日を増やすことで利用実績の増加と平均工賃額のアップを図る。 					

利用日数	令和6年度 予測	5,753日	評価	新規利用者4名は毎日通所で定着した。仕事もイベントも充実し活気があった。年度後半より退所や病気による長期休みの利用者が続いたが予算(5,220日)を大きく上回った。		
	令和年7度 目標	5,719日	対策	支援学校や関係機関への営業活動(パンフレット配布、紙漉きワークショップの開催等)を積極的に行う。定例で仕事以外の楽しみを提供する。相談支援につなげて自立を促す。		
開所日・時間		平日9:30~15:30		土日祝	月1~2回開所	
令和 8年度の イメージ	支援学校卒業生から高齢化した利用者まで、障害特性や生活環境が多様な利用者集団である構成が今後も見込まれる。加えて、親亡き後を見据えて自立へ向けて動く40代前後の利用者も増えるので、関係機関と一層繋がり自立した生活への支援により利用者の来所日数増加に繋げる。また、障害種別を問わず地域の関係機関からの紹介による利用者増加に向けた広報活動にも力を入れる。					

事業所名	リ切尔カ	定員	10名	管理者名	宇野大典
事業名称	自立訓練（生活訓練）		障害種別	知的 精神 身体	
スタッフ体制	管理者1名(兼務)、サービス管理責任者1名、生活支援員2名(内非常勤1名)				
令和6年度 事業総括	主な 事業計画の 達成度/評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生に関しては、これまでに見られなかった特性と進路に関する問題が出てきた。特性は難しい部分だが、リ切尔カ後のことも見据えて本人と話をしながら支援を行っている。進路は家族だけでなく近い関係者とも連携をとり共有しながら取り組んでいる。 ・1年生に関しては、関係が繋がるのにこれまでより時間がかかったが、ゆっくりと良くなってきている。学校からの引継ぎで心配していた部分がある利用者がいたが、本人と面談を重ねることで良い方向にいき心配だった部分はほぼ見られず、自己理解にも繋がり個別に合わせた支援を行うことができた。 ・見学会や夏の体験利用、学校からの実習を実施。来年度利用者の獲得やリ切尔カを知ってもらうための活動ができた。 ・社会生活セミナーをした職員にリ切尔カ仕様の内容に変えてもらい担当として入ってもらったり、リエゾンチームに毎月1回のプログラムを担当してもらった。また、体育館で運動をする際にひらめの家や御影倶楽部と一緒に活動をした。 ・今年もこうべ「森の学校」や「あすパーク」の活動に参加した。あすパークの一般参加の方には顔も覚えてもらい、街で会った時にも声をかけてもらえる関係になり地域との繋がりを感ぜられた。 ・SNSの毎日更新を目指していたができなかった。シンプルな投稿を意識してきたが認知の広がりには実感できなかった。 ・こども部会に毎月出席。放デイ職員や支援学校職員・各支援センター職員が出席しており、部会を通してリ切尔カを知ってもらう機会にもなっている。地域の障害のある子を持つ親との会話や交流、学びの場であるまめの木カフェの参加もできた。 ・単位制高校への営業を広げられなかったが、行けていなかった支援学校やB型、A型事業所、特例子会社へ行くことができた。 ・リ切尔カ以外の活動の場として神戸大学が企画している「よる・あーち」の見学をした。すでに利用している利用者があるが、他の利用者や今後の参考となった。他にも子ども食堂へ行く予定。 			
	上記に 対する 拡大/ 改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も全体と個別しての訓練・支援と、必要に応じた家族への対応を行う。また、リ切尔カ単体の活動だけではなく他事業所職員や利用者との活動を行うことで幅を広げる。外部での活動も一つひとつが経験になるよう事前準備や振り返りも大切にする。 ・SNSに関しては継続することが大事なので、投稿が途切れないよう工夫する。 ・営業活動も継続する。近隣の支援学校にはかなり認知してもらえており親からもリ切尔カの名前が出てきているようだが活動内容のイメージはまだ薄い。これまでの土台を大切にしつつ、より知ってもらうため工夫をしていきたい。 ・リ切尔カ以外での活動の場の情報を集めることを意識し、個別に必要なものがあれば提案できる選択肢を増やしていく。 			
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や学び、交流を通して社会や自分を知り、力を伸ばして自分らしい生き方を選択して踏み出すための支援をする。 ・利用者だけでなく家族との面談も行い個別に対応していく。 ・5年目に向けた利用者獲得をしていく。 			
	取組 内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定と振り返りを繰り返し、気付きを促すことで一人ひとりの自立の手助けを行う。 ・自分の意見や困りごと等の発信ができるよう、個々に合わせた支援を行う。 ・他者のことを考える機会を持つことで他者理解、受け止めができるようにする。 ・自己理解ができるよう、気付きを促すための声掛けや面談などを行う。 ・実際の体験によって経験が得られるよう、より生活に密着した活動を行う。 ・見学、実習等を通して、進路決定ができるようにする。 ・1年目、2年目利用者の合同、または異なる活動をすることで互いに刺激になるプログラム作りを行う。 ・プログラム充実のため地域との繋がりを持てる機会を探す。 		
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度リ切尔カ以外の職員にプログラムを担当してもらい、プログラムの幅を広げると共に生活訓練としての支援内容や方法、活動を理解してもらう。 ・リ切尔カ主催の体験実習や見学会を実施する。 ・家族への働きかけとして、基本的に細かな連絡等はしないが家族との連携が不可欠でもあるので必要に応じた面談や情報共有を行う。 		
経営	<ul style="list-style-type: none"> ・体験実習や見学会の実施、SNSの投稿、営業活動を行うことでリ切尔カの活動を知ってもらい、利用者獲得を目指す。 				

利用日数	令和6年度 予測	1,195日	評価	利用者数が1名減ったので実績も前年度よりも下がった。ブリマや修了式、HUG+展など土曜開所を実施したが、夏は家族旅行で欠席が増えた。		
	令和年7度 目標	1,252日	対策	7年度より利用者数が1人増予定だが引越し予定の利用者がいるので、その後の利用者数は6年度と同じになる。営業等による新規利用者獲得は7年度も意識したい。また、長期休暇の時期に旅行へ行ったり、休日も家族で過ごす家庭がこれまで多かったので土曜開所等の効果が薄い傾向にある。利用者に合わせて活動を組んでいくことで意欲を高められるようにしていきたい。		
開所日・時間		月～金 9:30～15:30		土日祝	イベント等に応じて開所	
令和 8年度の イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性、訓練として必要なことを整理しながら全体と個々に応じた支援をする。 ・現在の支援学校2年生でリチエルカ候補として6名いる。全員がリチエルカを希望するのか、本当にリチエルカでの訓練が適しているのかなどはまだ見えないが、6名増えると全体で9名になる。可能性が見えてくると、現状での受入れが難しいので職員体制や活動方法など事前に検討しておく必要がある。 					

事業所名		エム・ライズ		定員	なし	管理者名	宇野大典	
事業名称		就労定着支援			障害種別	知的・精神・発達・身体		
スタッフ体制		定着支援員1名(就労継続支援B型と兼務)						
令和6年度 事業総括	主な 事業計画の 達成度/評価	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初5名でスタートし2名退所(契約期間満了2件)。 エム・ワークスとの連携により2名が利用開始したため、5名で推移している。 ほとんどの利用者と月1回の面談を実施することが出来た。 定着支援終了者を障害者就業・生活支援センターに繋ぎ本人の安心へと繋がった。 						
	上記に 対する 拡大/ 改善課題	<ul style="list-style-type: none"> 企業は本人と雇用契約を結んでいるため家族との関わりはしない傾向にあるが、利用者のほとんどが自己決定能力に課題があり家族からの意見に左右されてしまう方が多い。そのため、家族支援も含め求められる定着支援の幅が広がっている。 毎月の支援報告書の他に、電話やメールで日頃から細やかな連携が取れている企業とそうでない企業がある。 						
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の利用者とのコミュニケーションの継続強化。 企業担当との面談を増やしていく。 利用者増に向けて余裕をもった支援体制を作っていく。 						
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の面談の目的を改めて利用者に伝えていく。 現状の悩みや不安等を掘り下げて聞き取っていく中で問題を整理し、優先順位をつけて相談する力をつけていただく。 相談ただけで終わるのではなく、解決に向けた助言を受けた後の実践行動および結果の振り返りをおこなう。 休日の過ごし方やストレス発散法等、ワークライフバランスを共に考える。 契約期間終了後の支援体制構築について関係機関との連携を深める。 					
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ジョブラボ利用終了後から定着支援に力を入れていき、スムーズにライズへ移行できる体制づくり。 本人への支援だけでなく企業への支援に力を入れ、情報共有により風通しのよい職場環境づくりと信頼を得る。 法人外からの利用を希望される方に対し各関係者間での情報共有をしっかりと行い、地盤を固めてから受け入れが可能か否かを判断する。 					
		経営	直近では利用者の増減なしとなっている。11月に就職した1名が定着支援の契約に至れば増加する見込み。今後のジョブラボの経営動向も大きく影響する。					
	利用日数	令和6年度 予測	61日	評価	2名退所(期間満了2件)。2名新規利用開始。ワークスの利用者減がライズにも影響した。			
		令和年7度 目標	64日	対策	ジョブラボから就職した利用者が契約に至るまで、出来る支援を怠らないようにする。			
開所日・時間		本人の希望に合わせ決定		土日祝	不定期			
令和 8年度の イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ジョブラボの支援の見直しを行い、個々の支援の必要性について考える。 ジョブラボの経営の安定をはかることで安定したメンバーの確保をする。 引き続き各関係機関への周知と本人・企業へのこまめな支援の実施。 							

事業所名	咲くら工房		定員	名	管理者名	野村明日香
事業名称	就労継続支援B型			障害種別	精神・知的・身体	
スタッフ体制	管理者1名、サピ管（兼務）、職業指導員1名、生活支援員3名(内非常勤2名)					
令和6年度 事業総括	主な事業計画の達成度・評価	<p>利用者増加を見込んで目標実績を掲げ前年度比117%を達成できた。退所者はあったものの新規利用者もあり、全体としてそれぞれの利用者の意向に寄り添い得意なことや強みに添った支援や安心して利用できる配慮や環境づくりができたと言える。</p> <p>弁当作業では職員のアイデアにより春先に玄関先の弁当看板を出したことで食数が平均20食ほどアップし、軽作業では常勤1名を配置できたことにより、作業種目を増やすことができ、咲くら単独ではR5年度15,743円から、R6年度約19,000円程に全体の利用者の平均工賃アップを実現することができそうである。</p>				
	上記に対する拡大/改善課題	<p>多様な障害特性の利用者が在籍しているため、それぞれの利用者に応じた支援や配慮を行い職員連携やご家族、関係機関などの連携を強める。</p> <p>弁当作業材料費高騰の課題に対して、工賃向上のための収支の確認と改善、新規メニューによる売り上げを増加させ工賃を維持していく。</p>				
令和7年度 事業計画案	基本方針	多様な利用者を受け入れながら、利用者の強みや長所が輝き「その人らしく」力を発揮できる環境づくりへの職員の支援力を高めていく。				
	取組内容	支援面	<p>利用者の特性や希望などを考慮し、より作業量や工賃を増やせるように、作業工程、作業環境、スケジュールを工夫する。</p> <p>利用者の意向を大切に支援計画を立て、就職希望者にはステップアップやジョブラボ参加を支援し、新規利用者にも作業に関わってもらえるよう作業の細分化等工夫していく。</p> <p>生活面で課題のある利用者へ、関係機関との連携により安定した生活を支援する。</p>			
		運営面	<p>利用者同士の相互理解、楽しみの支援のため、利用者全体会議、レクや法人イベント参加を促す。</p> <p>1人ひとりの生活に寄り添った支援ができるよう、職員研修等でスキルアップし、支援機関との連携を積極的に図り、職員の成長・支援力強化にもつなげる。</p>			
		経営	弁当作業の材料高騰が止まらないが、弁当時給ルールを整理して工賃をアップを工夫し、利用者にとってやりがいのある作業を維持していくことで利用実績向上を目指す			
	利用日数	令和6年度 予測	4,171日	評価	利用者増加に伴い、実績も目標通りの数値を達成できた	
		令和7年度 目標	4,250日	対策	利用者特性に合わせた作業内容と作業量、職員体制の確保と、関係機関や家族等との連携	
開所日・時間		(月)～(金)		土日祝	祝日開所	
令和8年度のイメージ	法人B型内での高工賃と、就職希望者の支援に向けてステップアップできる環境を目指す					

事業所名		ひらめの家		定員	20名	管理者名	矢口雅也	
事業名称		就労継続支援B型			障害種別	精神・知的・身体		
スタッフ体制		管理者1名(兼務)、サビ管(兼務)、職業指導員・生活支援員・目標工賃各1名						
令和6年度 事業総括	主な 事業計画の 達成度/評価	<p>地域の方々が気軽に立ち寄ってもらえるよう、103号室前で自主製品と共に「咲くら工房そば茶」「御影倶楽部紙漉き製品」を展示・販売し、1月には本部より「本の小箱」を移設・開放した。6月から水道筋商店街「たんぼぼ倶楽部」にて第三土曜日に販売会を行い、11月には同商店街でのイベントに参加をした。近隣の保育園児さんには野菜の栽培のため中庭を提供するなど地域との繋がりを深められる一歩を踏み出せた。利用者支援に関しては職員間での情報共有をし、関係機関への提供を行った。利用者それぞれの得意な事を活かせる様々な作業の提供に努めた。</p>						
	上記に 対する 拡大/改善課題	<p>地域を意識した活動には着手出来たと思うが、利用者数の増加には至らなかった。4月には支援学校の新卒者一名の利用が始まったが、その後の新規契約者はいなかった。現状の利用者構成は高齢で不安定な利用者比率が高いため、外部関係機関等への増員アプローチは必須だと思われる。</p>						
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 日々の作業やレク等を通じて、利用者同士が個性を認めあい尊重し合える事業所となるような運営を目指す。 職員間の情報共有を強化出来るよう適時ミーティングを実施する。 法人理念にもある「その人らしさ」を大切に支援していく。 						
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 利用者同士の個性や特性の尊重への配慮、何よりも本人の気持ちを大切にし、作業も細分化して達成感を感じてもらえるように工夫する。 利用者の遣り甲斐や個性の発揮、工賃向上に繋げるためにも、自主製品の開発を意識する。検討・工夫を継続して実現に繋げたい。 利用者一人ひとりの課題を聞き取り職員間で情報を共有し、同時に家族や関係機関と連携をする。 職員の専門性を磨くため、必要な研修に積極的に参加する雰囲気をつくる。 					
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の情報共有を強化するため、定期的・随時の会議時間を設定・確保する。 法人内の他の事業所との連携や交流が出来るようなイベントやレクリエーションを行う。 地域との交流を深めるために、月に一度の土曜開所を継続する。 					
		経営	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を獲得するためにも関係機関への訪問を行う。 					
	利用日数	令和6年度 予測	3,114日	評価	月に一度の土曜開所を実施したが、体調不良による欠席者も多く実績増加には至ら			
		令和7年度 目標	3,189日	対策	支援学校新卒者や関係機関へ、管理者が定期的に営業活動を行う。			
開所日・時間		月～金曜日・9:00～15:00		土日祝	月1～2回開所			
令和8年度の イメージ	地域との交流や、法人内の他事業所との交流や連携が出来ている。							

多機能型・一体型 事業計画(案)

	多機能型御影倶楽部	一体型咲くら工房
<p>令和6年度 事業 総括 概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エムワークスは1月末で事業終了した。リチエルカ卒業後の出口や御影倶楽部からの利用者移籍という多機能型として機能が果たされないままでの苦渋の決断だった。 ・リチエルカプログラムへの御影倶楽部利用者の参加や合同新年会の開催だけではなく、日常的に相互のメンバー同志や職員と一緒に過ごすなど、利用者や職員間の交流はある程度持てた。一方で事業所の枠を超えたメンバー間の距離感等について、職員間での情報共有や意思疎通が必要とされる状況もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲倶楽部事業終了後、利用者はひらめの家と咲くら工房へ移籍され、両事業所にて安定して通所できている。 ・咲くら工房の鞆そば茶をひらめの家で販売した。水道筋商店街や県庁マルシェの販売会等にも販路拡大して連携を取ることができた。 ・咲くら工房とひらめの家での下請け等の工賃アップが実現でき、一体型平均15,000円以上を初めてクリアできる見込みである。
<p>令和7年度 事業計画 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブラボが本格始動するため、職員間で緊密に連携してそれぞれの役割を担い、就労に向けたプログラムや作業を進める。 ・支援学校卒業生以外にも利用者間の交流や接点が多い分、御影倶楽部とリチエルカの職員間で利用者の特性や支援方針を常に共有する必要がある。管理職主任間だけではなく、日常業務において職員間の情報交換や意思疎通をより円滑に進められるよう、わかばを含めて職員が気軽に集まり話をする機会を積極的に持つ。 ・年度途中および来年度新規利用者の確保のため、支援学校・関係機関・クリニック等に各事業の支援の内容や特徴を伝えるために積極的に訪問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらめの家の近所への弁当の販路拡大のため、チラシ配布や配達方法を検討する。また、下請け等の連携を取り両事業所の工賃向上を目指す。 ・咲くら工房では引き続き一般就労の希望者にはステップアップの支援を行う。ひらめの家では下請け作業を行いながら、商店街の立地を活かした地域交流や店頭販売、ゆっくり過ごせる居場所のニーズやレクの充実にも応えられる運営を行っていく。

事業所名	わかば	定員	20名	管理者名	松田里佳子
事業名称	地域活動支援センター(センター型)		障害種別	精神(発達障害含む)・知的・身体	
スタッフ体制	センター長1名・指導員2名(内非常勤1名)				
令和6年度 事業総括	主な事業計画の達成度/評価	<ul style="list-style-type: none"> ・体験利用者へのプログラム送付や新規登録直後のフォローなど利用定着への工夫を行った。 ・「出張わかば」として居場所機能の拡大を維持したまま、イベント機能として外部講師によるプログラムを実施することができたが、その告知等にまでは手が回らなかった。 ・発達障害者東部相談窓口と連携してリモート見学会の準備を進めることができた。 ・御影倶楽部と合同で勉強会を兼ねた家族会を実施することができた。 ・利用者の自己表現や社会参加に繋がる活動をサポートすることができた。 			
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者定着のための工夫を継続しつつ、関係機関との連携を強化して見学者を増やす。 ・「出張わかば」の目的や内容について医療や関係機関への周知を図る。 ・引き続き利用者の自己表現や社会参加に繋がる活動をサポートする。 ・地域の就Bでの作業以外のレクリエーションやプログラム実施が増える中で、地域活動支援センターの役割について改めて考える。 			
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・障害種別に関わらず地域で生きづらさを感じる人が利用できる場所となる。 ・利用者だけでなく家族にとっても安心できる相談場所となる。 ・医療や関係機関と連携して困難ケースも受け入れる。 			
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・個別的支援と集団的支援のバランスを考えて支援する。 ・障害特性の異なる利用者同士が安心して過ごせるための工夫を行う。 ・発達障害者東部相談窓口と連携し、オンラインを活用して引きこもりがちな発達障害者が参加できる見学会を実施する。 		
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して障害種別に関わらず安心して利用できる事業所運営を行う。 ・関係機関との連携力を活かして、地域での役割を担う。 ・業務分担や事務作業の効率化を図りながら、新しい職員体制を早期に安定させる。 ・職員それぞれの強みを活かした上で協力して運営する。 		
		経営	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から徴収するプログラム費を有効活用し、プログラムの内容を充実させる。 ・事業所運営に関わる経費について意識する。 		
利用日数	令和6年度予測	1770日	評価	新規利用者も多く、登録者数に変化はないものの、就Aや就Bとの併用や介護保険サービス利用が増加して利用日数は前年度を下回った。	
	令和7年度目標	1800日	対策	体験利用中や登録直後は特に細やかな対応や支援を心がけ、関係機関とも連携して定着を図る。	
開所日・時間	月・火・水(第2/第4)・木・金・日(隔週) 10:00~16:00		土日祝	日曜(隔週)開所 土曜定休	
令和8年度のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制が安定して、新たな取り組みにもチャレンジできている。 ・発達障害者東部相談窓口との取り組みがスタートしている。 				

事業所名	あんず		定員	20名	管理者名	センター長 林 紡		
事業名称	地域活動支援センター(センター型)			障害種別	精神(発達障害含む)・知的・身体			
スタッフ体制	センター長1名 指導員2名(内非常勤1名)							
令和6年度 事業総括	主な事業計画の達成度/評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が主体的に参加できるプログラムを積極的に行い、それぞれの力を発揮する場を提供する事ができた。また、それによる利用者間の相互作用も生まれた。 ・昨年度からの新規利用者が定着し、それぞれにとって安心して過ごせる居場所として機能する事ができた。 ・自立支援協議会やほっとかへんネットなどへの参加を通して、関係機関との連携の強化や民生委員等への広報活動を行う事ができた。 ・利用者の興味や希望に合わせて、ボランティア講師によるプログラムを幅広く開催できた。 ・発達障害者東部相談窓口と連携してリモート見学会の準備を進める事ができた。 						
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・登録や利用定着に至らなかった利用者の理由を分析し、定着しやすい工夫を行う。 ・引き続き関係機関との連携や、地域住民との繋がりを強化する。 ・女性利用者に比べて男性利用者の来所率が低いため、男性利用者も興味を持てるプログラム運営や過ごしやすい雰囲気作りを検討する。 						
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人の多様なニーズに合わせた丁寧な関わりを通して信頼関係を構築し、リカバリーやQOLの向上を支援する。 ・地域の関係機関との連携を深め、地域の中で居場所を求める対象者にとって気軽に繋がることのできる社会資源となる。 						
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって身近な相談場所や安心して過ごせる居場所としての機能を維持する。 ・利用者同士がプラスの相互作用をもたらせるよう、利用者主体のプログラムの運営や、安心して人と関わることのできる環境作りを行う。 ・利用者一人一人が抱える問題や生きづらさに寄り添った相談支援が行えるよう、各職員の専門職としてのスキルアップを目指す。 ・職員体制の変更後も利用者が安心して利用し続けられるよう、丁寧なフォローを行う。 					
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係機関との連携を深め、地域の中での地活の役割の周知を目指す。 ・あんずの良さでもあるアットホームな雰囲気を維持しながら、利用者が安心してチャレンジできる、利用者主体の事業所運営を行う。 ・新たな職員体制に合わせて業務分担や方法を見直して効率化を図り、環境整備や資料整理など、これまで十分に行き届いていなかった業務にも取り組む。 					
		経営	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から頂くプログラム費を有効活用し、プログラムの内容を充実させる。 ・事業所運営に関わる経費について意識する。 					
	利用日数	令和6年度 予測	1950日	評価	時期によって来所者数にばらつきはあったが、利用者それぞれのペースで利用を続けられている。			
		令和7年度 目標	2000日	対策	新規利用者が定着しやすい働きかけや環境づくりを引き続き行う。			
開所日・時間		月・火・水(第1/第3)・木・金・土(隔週) 10:00~16:00		土日祝	土曜日(隔週)開所			
令和8年度のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな職員体制が定着し、各職員が力を発揮して安定した事業所運営を行っている。 ・発達障害者東部相談窓口との取り組みがスタートしている。 							

事業所名	いろは	定員	若干名	管理者名	松田里佳子
事業名称	指定特定相談支援事業		障害種別	知的・精神(発達障害含む)	
スタッフ体制	常勤2名(兼務)				
令和6年度 事業総括	主な事業計画の達成度/評価	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として担当ケースが4名となった。 連絡会や勉強会に参加することができた。 加算対象の研修受講や福祉サービス提供時のモニタリングなどにより、可能な限りの加算を得ることができた。 年度途中より共有フォルダを活用して業務の効率化を図ることが出来た。 			
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> 担当ケース数の増減はないと思われるが、それぞれのケースで家族の状況や住まいなど生活環境が変化してきているため、今まで以上にきめ細やかな支援を心がける。 できる限り連絡会や勉強会などに参加してスキルアップを図ると共に、ネットワーク拡大を目指す。 			
令和7年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談事業の形にこだわらず、地域の相談窓口としての役割を担う。 「本人主体」を大前提に、利用者が地域で自分らしい生活が送れるよう支援する。 社会資源の情報を法人内事業所と共有する。 			
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族の、願いや不安に寄り添った丁寧な支援を行う。 支援者間の円滑な連携のために相談支援事業所としての役割を担う。 		
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 業務の分担や効率化を図り、兼務によって生じる負担を軽減する。 無理のない範囲で加算取得を目指す。 		
		経営	<ul style="list-style-type: none"> システム使用料を含む事務費用の一部が賄えるように努力する。 法人としての相談支援事業の方向性について検討を始める。 		
	利用日数	令和6年度 予測	4ケース	評価	目標の3名を超えて4名を担当することができた。
令和7年度 目標		4ケース	対策	ケース数を維持して更にきめ細やかな支援を行う。	
開所日・時間		月・火・木・金(10:00-13:30)		土日祝	休み
令和8年度の イメージ	兼務の職員が1名増えている(希望)。				